

第2学年*組 外国語（英語）科学習指導案

指導者 JTE1 浅田有香 JTE2 大内直樹 ALT Jean Goodhall
社会人講師 Matthew SMITH, Ebunoluwa OMONI, Sarah VITONE,
Ken DOWSETT, Brian STONEY

1 題材名 Great City Hitachi ～外国の人に日立市を紹介しよう～

2 題材の目標

- (1) 外国の人に日立市を紹介するためのグループ活動に意欲的に取り組もうとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 日立市のよさが伝わるように日立市を紹介する英文を書いたり、表現上の工夫を加えて発表したりすることができる。
(表現の能力)
- (3) 外国の方からのアドバイスを聞いて、その内容を理解することができる。
(理解の能力)
- (4) 日立市を紹介する際に正しい発音、英語のリズム、抑揚、表情、ジェスチャー等を身に付けている。
(言語や文化についての知識・理解)

3 授業展開の構想

本校では「基礎・基本の確実な定着を図るための指導法の工夫～言語活動を取り入れた授業の実践を中心として～」を課題研究のテーマとして掲げている。そこで英語科では、学習指導要領の目標を踏まえ、基礎・基本の確実な定着を図るため、以下のように「わかる・できる生徒の姿」を定義づけ、英語科における言語活動について協議し、共通理解を図った。

わかる・できる生徒の姿
①聞いたり読んだりした内容を適切に理解し、知識としてまとめることができる。
②自分の思いや考えを英語で話したり書いたりして発信することができる。

英語科における言語活動
・自分で書いた文章を友人同士で紹介しあうなど、「書く活動」「聞く活動」「話す活動」「読む活動」を関連して行う。
・ show and tell やスキットなどを発表して表現力をつける。

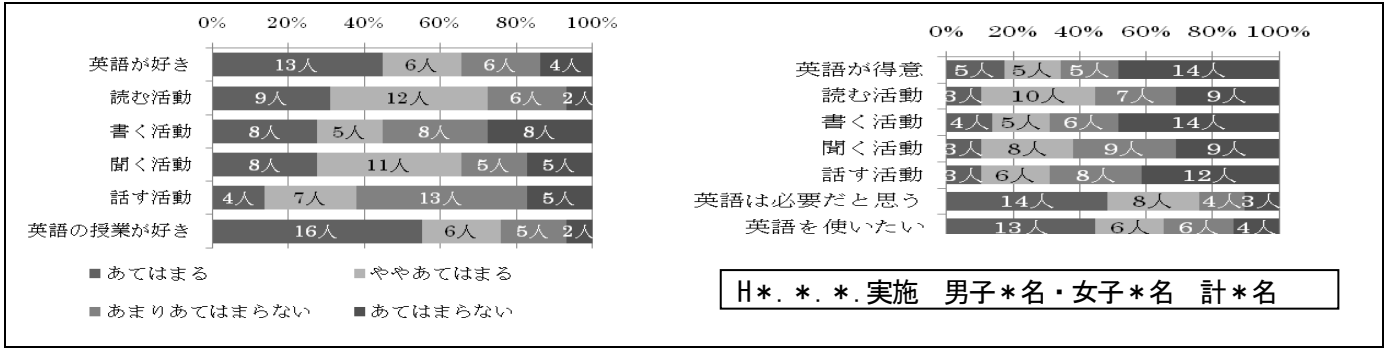
これらの共通理解をもとに、本校英語科では言語活動を取り入れた授業の実践を中心としながら、「聞く活動」「話す活動」「読む活動」「書く活動」が統合的に関連して行われるような場を設定している。また、少人数指導・TT指導など個に応じた指導の充実や、英語教室・メディアスペースなど学習環境の活用、Speedy Input・英単語テストなど基礎・基本の定着を図る継続的な指導といった、計画的な学習活動の実践に努めてきた。

英語に対する苦手意識をもつ生徒が増えつつある2年生の学習指導上重要なことは、基礎・基本の定着のために基本表現の練習を十分に行い、苦手意識を取り除くことと、英語を使う必要感が実感でき、英語を使う喜びを味わえる授業を展開することであると考え。そのため普段の授業では基本表現の口頭練習を十分に行ってから書く活動に入ったり、授業の最初に既習事項をまとめたSpeedy inputをペアで行ったりしている。また、生徒一人一人の「伝えたい思い」を大切に、その思いを表現したくなるような場の設定を工夫し、これまでに次のような単元で「自分の思いを表現する」活動を行ってきた。

時期	単元名	活動
4月	Warm up A Speech and a Game	・自分の好きなものについてShow and Tellをする。
5月	Unit2 Emi Goes Abroad	・海外から来た友だちと一緒に日立市の名所を訪れているという設定で、紹介したい場所のナレーションをする。
6月	Unit3 E-pals in Asia	・日本で今流行しているものを紹介するメールを作る。
7月	Let's Read! A Magic Box	・もしMagic Boxがあったら何をしたいかを発表する。
9月	Unit4 Homestay in the United States	・自分がホームステイしたい国について調べ、その国において自分が紹介したい日本文化についての英文を書く。
10月	Unit5 A Park or a Parking Area?	・「給食を廃止する」という架空の計画について、賛成か反対か自分の意見を書いて発表する。

また、日立市では「郷土日立に誇りをもち国際社会に生きる人間」の育成を学校教育の基本理念として掲げている。平成22年度重要事業の一つに、「世界にはばたく子ども育成推進事業」があり、「自信と誇りをもって世界に郷土日立を紹介できる子」の育成が提言されている。2年生が今まで行った日立市の名所を紹介する活動や、日本文化を紹介する活動は、日立市が目指す学校教育基本理念をふまえて実施してきた。

【英語の学習に対する実態調査】



本学級の生徒は大変活発で、明るい雰囲気の中で授業に取り組んでいる。「接続詞 when を用いて自分が楽しいと思う時間について書こう」という活動では、辞書を用いたり、ALT や JTE に積極的に質問したりして活発に活動を行う等、英語学習に対しての関心も高い。少人数での授業では一人一人が自分の習熟度や目標に合ったクラスを自ら選択・決定し、意欲的に学習に取り組んでいる。英語の学習に対する実態調査によると、英語の学習に対して「好き」または「どちらかといえば好き」と答えた生徒は、全体の*割になる。また、英語の授業に対して「楽しい」または「どちらかといえば楽しい」を合わせた数も、全体の*割を超える。日々の授業で様々な方法の音読練習を行ったり、授業の最後に Reading Test を継続的行ったり、またリスニング教材を継続的に用いたりしているためか、特に読む活動や聞く活動を好む生徒が多いようである。更に、「英語が必要である」「英語を使いたい」という意見に「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒は全体の*割になる。多くの生徒が英語を使う必要感を感じていることがわかる。

その一方で、英語そのものに対する苦手意識は高く、特に書く活動と話す活動に抵抗感をもっている生徒もいる。英語を使って自分の思いを表現したいという気持ちは強いが、それが思うように実現できない生徒の姿が浮かび上がってくる。表現の能力はすぐに身に付くものではないが、生徒が表現したいという気持ちを生かし、「自分の思いを表現する」場面を意図的に設定して、英語で表現する学習を数多く取り入れることが重要であると考えられる。

このような取り組みや生徒の実態をとらえ、Multi Plus3「わたしの町」で学習した既習表現を用いて自分の思いを表現したくなるような場を設定し、英語を使って表現する喜びを味わえるような授業を展開したいと考えた。そこで、本題材では「日立市について自分たちが伝えたい思いを表現する」という目標を設定した。生徒たちにとって、自分たちが育ってきた日立市のよさを改めて見つめ直し、それを外国人である社会人講師の前で英語を用いて発表することで、郷土に自信と誇りをもつきっかけとしたい。生徒にとって外国人の前で発表をすることは初めての経験であり、今まで行ってきた活動の中でも難易度の高い活動であるので、時間をかけ、1 つずつ活動を進めてきた。生徒が表現したいという気持ちを生かせるよう、まずは個人で自分が紹介したいものについて紹介文を書き、テーマごとにグループを編成した。

本題材においては、生徒はこれまで、同じテーマの生徒でグループを作り、日立市について紹介文を考えきた。さらに同じテーマのグループでも内容や発表方法を工夫することで、自分たちが表現したいものを伝えられるようにした。本時では、互いの意見を交換しながら作成した英文を基礎として、ALT や社会人講師によるきめ細かな指導を少人数で行うことで、自分たちの気持ちを表現する力を高めていく。また、異文化そのものである社会人講師とのやりとりを通して、「英語が聞き取れた」「自分の英語が通じた」という喜びを味わわせ、これからの英語学習への意欲付けにしていきたい。

4 題材の指導計画 (4時間扱い)

時間	学習活動・内容	主な評価規準【評価方法】	(1)	(2)	(3)	(4)
1	・日立市の中で自分が紹介したいテーマを選び、それについての紹介文を書く。	・適切な時制、表現を使って日立市を紹介する文を5文以上書くことができる。 【観察・ワークシート】	○	◎		
2	・個人で書いた英文を持ち寄り、グループで発表原稿を作成する。	・互いによいところを認めあい、作文の内容を深めることができる。 【観察・ワークシート】	○	◎		
3	・ALT, JTE から英作文の指導を受ける。 ・ALT, JTE からのアドバイスをもとにグループ原稿を推敲し、発表の練習をする。	・教師のアドバイスを聞いて正しく理解し、原稿を推敲することができる。 【観察・ワークシート】		○	◎	
4 (本時)	・社会人講師に英語のリズム、抑揚、間の取り方等、英語で自分の思いを伝える際のアドバイスをもらいながら、表現方法を工夫し、発表に向けて練習をする。 ・実際に社会人講師の前で発表する。	・社会人講師からのアドバイスをもち、英語のリズム、抑揚、間の取り方等、今までの発表にさらに表現上の工夫を加えて、日立市について紹介することができる。 【観察・発表】		○		◎

5 本時の指導

(1) 中心となる目標

○日立市を紹介する際に、正しい発音、英語のリズム、抑揚、表情、ジェスチャー等を用いることができる。

(2) 目標を達成するための手段・方法

○教科教室型という学習環境を生かし、少人数で社会人講師やALTのきめ細かな指導を受けられる環境を作る。

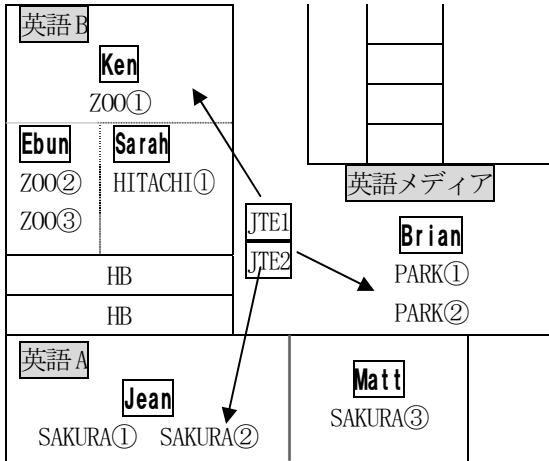
(3) 展開 (_____は言語活動)

(○はテーマとの関連)

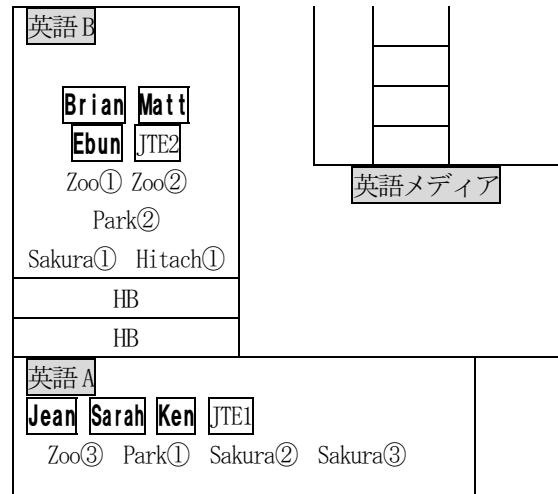
学習活動及び内容	活動の支援と評価																																	
	JTE1	JTE2	ALT	社会人講師																														
<p>1 ウォームアップをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単な自己紹介を聞く。 <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「Great City Hitachi」の表現を工夫し、外国の人が思わず行きたくくなるような発表をしよう！</p> </div> <p>(1) 学習課題や達成目標について説明を聞く。</p> <p>(2) 学習の進め方について説明を聞く。</p> <p>前半</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとにALTや社会人講師のアドバイスをもらいながら、発表に向けて練習する。 <p>後半</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員の前でグループごとに発表する。発表のあと担当ではなかった社会人講師からの質問に答える。 <p>グループ名 (発表のテーマ)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>Kamine Zoo</td> <td>Kamine Park</td> <td>Heiwa Street</td> <td>Industry of Hitachi</td> </tr> <tr> <td>Zoo①</td> <td>Park①</td> <td>Sakura①</td> <td>Hitachi①</td> </tr> <tr> <td>Zoo②</td> <td>Park②</td> <td>Sakura②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Zoo③</td> <td></td> <td>Sakura③</td> <td></td> </tr> </table>	Kamine Zoo	Kamine Park	Heiwa Street	Industry of Hitachi	Zoo①	Park①	Sakura①	Hitachi①	Zoo②	Park②	Sakura②		Zoo③		Sakura③		<ul style="list-style-type: none"> 明るい雰囲気です授業を始め、これからの活動に意欲的に取り組める雰囲気作りをする。 具体的な活動内容や時間を示し、本時の学習の見通しがもてるようにする。 グループの能力や意欲、習熟度に応じて紹介する内容や量を決めるように助言する。 他のグループのよさに気づくことができるよう、同じテーマのグループ同士で相互に発表を見せ合うように指示する。 同じテーマであっても内容や表現の方法を工夫することで、自分たちの表現したい気持ちを伝えるように助言する。 <p>○説明に集中できないAに対しては、個別に活動内容を話し、見通しがもてるよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各活動場所に移動して準備をする。 ALTと社会人講師は、下図のようにグループを担当し、紹介内容や表現方法について指導・支援する。 ALTと社会人講師の担当グループ <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>講師</th> <th>担当グループ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Mr. DOWSETT</td> <td>ZOO①</td> </tr> <tr> <td>Mr. OMONI</td> <td>ZOO②&ZOO③</td> </tr> <tr> <td>Mr. STONEY</td> <td>PARK①&PARK②</td> </tr> <tr> <td>Ms. GOODHALL</td> <td>SAKURA①&SAKURA②</td> </tr> <tr> <td>Mr. SMITH</td> <td>SAKURA③</td> </tr> <tr> <td>MS. VITONE</td> <td>HITACHI①</td> </tr> </tbody> </table>	講師	担当グループ	Mr. DOWSETT	ZOO①	Mr. OMONI	ZOO②&ZOO③	Mr. STONEY	PARK①&PARK②	Ms. GOODHALL	SAKURA①&SAKURA②	Mr. SMITH	SAKURA③	MS. VITONE	HITACHI①		
Kamine Zoo	Kamine Park	Heiwa Street	Industry of Hitachi																															
Zoo①	Park①	Sakura①	Hitachi①																															
Zoo②	Park②	Sakura②																																
Zoo③		Sakura③																																
講師	担当グループ																																	
Mr. DOWSETT	ZOO①																																	
Mr. OMONI	ZOO②&ZOO③																																	
Mr. STONEY	PARK①&PARK②																																	
Ms. GOODHALL	SAKURA①&SAKURA②																																	
Mr. SMITH	SAKURA③																																	
MS. VITONE	HITACHI①																																	
<p>3 <u>各活動場所に移動して、英語のリズム、抑揚、間の取り方等、英語で自分の思いを伝える際の表現の工夫について、ALTや社会人講師にアドバイスをもらいながら、発表に向けて練習をする。</u></p> <p>①グループごとに担当のALTや社会人講師のところへ行き、活動する。</p> <p>②担当のALTや社会人講師に表現のし方の指導を受けながら、発表に向けて練習する。</p> <p>③発表に向けて、ALTや社会人講師にコメントをもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各活動場所を回りながら、社会人講師と生徒の活動がスムーズに進むように個別に支援する。 <p>○学習への取りかかりが遅いBに対しては、一緒に練習をし、グループの中に入って活動するよう声をかける。</p> <p>○グループ活動が苦手なCに対しては、グループでの自分の役割を意識させ励ます。</p> <p>○学習意欲が低いDに対しては、できたことを賞賛し、次の活動につながるよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> できたことを賞賛しながら、表現上の課題を細かく具体的に提示し、生徒の意欲を高めていく。 モデルを示し、繰り返させながら支援をすることで、音声表現面での抵抗感を減らしていく。 ○英語でのコミュニケーションに意欲的なG、Hに対しては簡単な英語で会話をすることで、英語を使う喜びを感じさせ、自信をもたせる。 練習終了後には、よかった点を賞賛するとともに、発表に向けて意欲が高まるように改善すべき点を簡潔に伝える。 今まで努力してきたことをほめ、自信をもって発表に臨むように励ます。 																																

【活動場所】

前半：練習



後半：発表



4 英語A, B教室に戻り, 次の順番で発表し, 発表後 ALTや社会人講師からの質問に英語で答える。他のグループの発表を聞きながら評価シートに記入する。

英語A教室	英語B教室
Jean Sarah Ken JTE1	Brian Matt Ebum JTE2
Zoo③ Park① Sakura② Sakura③	Zoo① Zoo② Park② Sakura① Hitach①

○人前で発表することが苦手なC, Eに対しては, 今まで努力してきたことをほめ, 自信をもって発表できるよう声をかける。
○活動に集中できないA, Dに対しては, 最終発表であることを伝え, 今までで最高の発表にするよう声をかける。

○緊張をすると黙ってしまう傾向があるFに対しては, 今まで努力してきたことをほめ自信をもって発表できるよう声をかける。
○学習意欲が高いG, Hに対しては社会人講師に自分から質問するように声をかけ, 普段学習している英語が実際に役立つことを実感させたい。

・ALTと社会人講師は以下の観点で評価をする。

- 【ALTと社会人講師の評価の観点】
- ①紹介文の内容は適切か。
 - ②相手にわかりやすく表現しているか。
 - ③積極的に伝えようとしているか。
- ・よかった点や課題となる点についても伝える。

(評)

日立市を紹介する際に, 正しい発音, 英語のリズム, 抑揚, 表情, ジェスチャー等を用いることができる。

(言語や文化についての知識・理解) 【発表・観察】

5 本時のまとめをする。
(1) 本時の活動について自己評価を記入する。
(2) ALTからの講評を聞く。
(3) 社会人講師からの講評を聞く。

・ワークシートに本時の学習で努力できた点や今後の課題とすべき点を記入するよう指示する。

・伝え方について, さらに工夫すべき点を話し, 次時に向けての課題がもてるようにする。

・具体的な生徒の姿を示し, 積極的に賞賛する。
・指導を通して感じた点・良かった点・改善すべき点を述べる。
・日立市のよさを外国の人たちにもっと知ってほしいことを伝え, 今後の学習への意欲を高める。
・英語を学ぶことの意義について述べる。